

2026 年度 神奈川県石油コンビナート等防災本部 合同図上訓練 実施要領(案)

1 訓練の想定

2026 年 11 月 13 日（金）12：28、東京都大田区を震源とするマグニチュード 7.3 の大規模地震（地震のモデル：都心南部直下地震）が発生し、関係各機関は速やかに対策本部を設置して関係被害情報の収集を開始する。

なお、訓練では、地震発生後からコンビナート災害の収束までを 4 つのフェーズ※に分けている。

（1）災害における 4 つのフェーズ

・フェーズ 1（発災～1 時間後）

- ①事業所が異常現象を覚知した時点
- ②事業所において応急処置を施すレベル

・フェーズ 2（1～3 時間後）

- ①事業所単独では拡大を防止することができない状況
- ②複合災害に発展するおそれのある状況

・フェーズ 3（3 時間後～5 時間後）

- ①爆発炎上・毒性物質の流出等複数災害の発生
- ②被害が周囲に拡大

-----今回の訓練はここまで

・フェーズ 4（5 時間後～災害の収束期）

- ①完全な鎮火状態ではないが、ほぼ鎮圧状態
その後、鎮火状態、今後の拡大性なしへと移行
- ②毒性物質も拡散のおそれなし

（2）特定事業所の被害想定（横浜市・川崎市同時発災）

①京浜臨海地区（川崎）

- ・浮き屋根式タンクの火災：ENEOS(株)川崎製油所浮島地区
（リム火災→リング火災→全面火災）
* 大容量泡放射システムの輸送等に関わる活動要領
- ・球形 LPG タンクの LPG 漏洩：東亜石油(株)京浜製油所

②根岸臨海地区（横浜）

- ・高圧ガス施設からガス漏洩：ENEOS(株)根岸製油所
- ・荷役設備から原油漏洩（海上漏洩）：ENEOS(株)根岸製油所

2 重点訓練項目

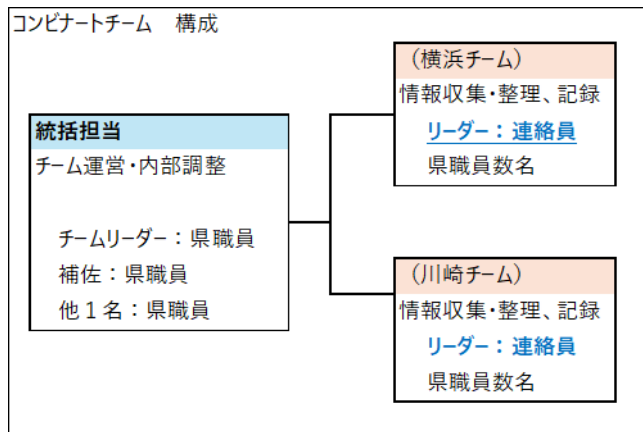
- ・ 2025 年度の重点訓練項目を継続しつつ、以下の点をシナリオに織り込む
- ・ 訓練開始のタイミングは、発災直後（2 分後）

（１）現地防災本部の立上げ～本部連絡員の派遣（初動対応）

＊ 石油コンビナート等防災本部等初動対応マニュアル

（２）コンビナートチームの運用（連絡員の役割）

現地防災本部設置 → 本部連絡員派遣 → コンビＴ合流



サブチーム(数名)のリーダーとして、特定事業所における重大事故の現地防災本部、関係行政機関等から寄せられる危険物施設や高圧ガス施設等に係る情報の集約・整理等を行う。

（３）スロッシングシステムの運用・・・特定事業所

1 次評価（満液）→ 液面入力 2 次評価 → 現場確認

3 訓練の進め方

（１）訓練の約 2 週間前～前日まで

ブラインド部分を除いた想定シナリオを参加者全員に事前周知する。

→ 事前説明会実施 10 月下旬

（２）訓練当日

訓練参加者は、訓練開始時刻までに各会場に参集し、訓練に臨む。

＜当日のスケジュール＞（訓練の進行具合等によって変動の可能性あり）

13:00～13:20	受付、準備
13:20～13:40	挨拶、訓練に関する事前説明
13:40～15:40	一部ブラインドシナリオ型机上訓練：進行は 2 倍速
15:40～16:00	振返り
16:00～16:30	意見交換、講評、閉会

（３）後日、参加者へのアンケートを実施し、訓練全体の検証を行う。

5 注意事項

(1) 服装について

服装は自所属で使用している制服とし、その上から事務局が用意したビブスを着用すること。

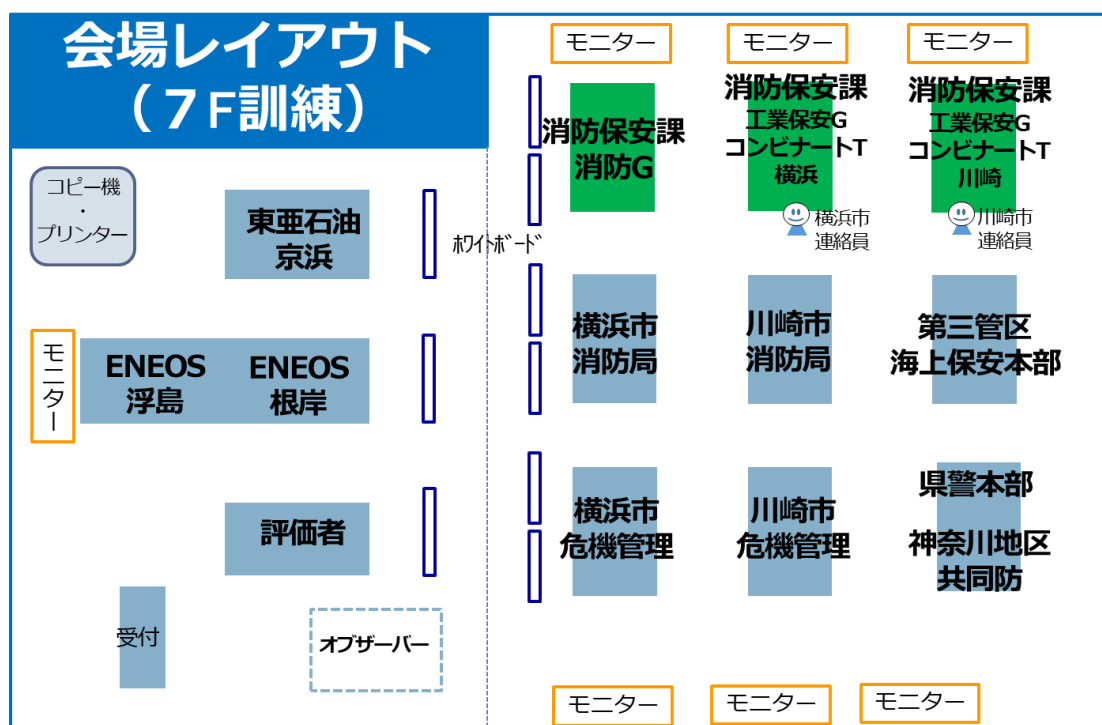
(2) 資機材

訓練当日、各プレイヤーが使用可能な資機材は次のとおり。

なお、これ以外に各機関で使用したい資機材、報告様式（電子データ）等があれば、事前に調整の上、適宜持ち込むことも可とする。

- ・パソコン（各チーム2台、プリントアウト可、インターネット閲覧不可）
- ・共用コピー・プリンター複合機
- ・ホワイトボード（各チーム2枚程度）
- ・筆記用具（ボールペン、シャープペン、消しゴム、付箋等） など

訓練会場（統制部室 A、B） 配置図（図上訓練プレイヤー）



訓練会場（統制部室 C） 配置図（図上訓練コントローラ）

